

科目名	地域社会と経済	備考	
単位数	2単位	授業形態	講義

野田 裕 康

《地域社会人講師から地域と生きた「経済」を学ぼう》

1. 授業内容

日本の経済や地域社会は、今、問題がいっぱいあります。それが皆さんの就職問題にも跳ね返ってきています。大学卒の離職率が高くなっていることです。この講義では若者の就職、地域のまちづくりや企業の現状、市役所や県庁のいろいろな取り組みを見ていきます。

講師は、地域の社会と経済に貢献されている企業人・公務員・NPO・市民の方々です。大学教員だけではなく、地域の第一線で活躍されている方が自分の体験に沿って講義をするという、大変、ユニークな試みです。この講義を受講することによって、本の中からはわからない生きた経済を学ぶことができ、皆さんのこれからの生き方も示唆してくれるでしょう。

具体的には、「地域に根ざした企業・自治体・市民の社会貢献」と題して、次の3つのテーマを学習します。①地域における中小企業の役割、②地域における市役所など公的セクターの役割、③地域の資源・環境を活かしたまちづくり、です。講師の方々には地域で活躍している企業人・行政マン、市民運動に携わる方々や卒業生などです。

2. 到達目標

皆さんに必要なのは、生きた現実を知り、実社会に対する現実感覚を身につけることです。この科目の到達目標は、「地域の経済や社会が、どのような状況にあるのか」、「どのような問題を抱えているのか」について学習することです。地域といっても、飯能市や入間市に限った話ではありません。おそらく日本全国の地方や地域が、共通して抱えていると思われるような問題や課題について勉強します。そこから今後地域に生きる社会人として、何が問題でそれをどう解決していくのか考えていく力を養います。

3. 到達目標となる駿大社会人基礎力/養成する能力要素（スポーツ科学部）

生きた現実を知ることにより、課題を発見・解決する「総合的な力」を養うだけでなく、社会人・企業人から生き方、職業観、社会観を貴重な体験談を交えて学ぶことにより、就職活動にも生かせる「行動に移す力」を身につけます。

4. 卒業認定・学位授与方針との関連

この科目は、ディプロマ・ポリシー(全学部)の「(5)総合的な力」と関連しており、社会のあるべき姿と現状を適切に認識し、問題意識を持つことができる力を養います。

5. 関連科目

地域と金融、地域社会と環境

6. テキスト・参考書等

テキストは使用しません。

7. 授業外における学習方法及び必要な時間

講義時に配布された資料を再度読み直し、重要な箇所は下線を引くなど復習しておくこと（1時間）

講義時に要点など記入した自分のノートを、再度整理しておくこと（1時間）

講義後に理解できなかった用語などを、メディアセンターや経済辞典などで確認すること（2時間）

8. 成績評価方法

評価種別	割合（%）	成績評価基準・その他備考
レポート	60%	授業内容の理解を問うため、毎週授業終了時に提出するレポートを5段階（4点、3点、2点、1点、0点）で15回評価します。
受講態度	40%	私語、スマホ操作、内職、居眠りなどは、減点対象となります。これらの行為は、例え一時的であっても、講師に対するマナーの欠如であり、教員が適宜判定します。
その他関連する事項	—	授業の欠席回数が4回を超えた場合は、自動的に成績評価の対象外となり、単位修得できません。

9. 課題に対するフィードバックの方法

毎授業ごとに、理解度確認及び復習として、小レポートを作成し、授業終了時に提出します。

10. 実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の実務経験：—

実践的な教育の取組：—

11. 授業計画

第1回	（野田）ガイダンス、地域の社会とは、地域の経済とは
第2回	（野田）若者の就職状況（中卒、高卒、専門卒、大卒、院修了）
第3回	（野田）様々な企業（働くこと、遊ぶこと、学ぶこと）
第4回	（田中）職業選択—公務員と民間の仕事—
第5回	（田中）中小企業の魅力
第6回	（野田）ドイツの地域経済、地域社会
第7回	（大石）地域での自然環境保全活動の実際
第8回	（大石）地域の自然を体感しよう
第9回	（野田）これからの経済はどうなるのか
第10回	（小山）地域社会で働く意義（企業が求める人材とは）
第11回	（小山）地域の一隅を照らす仕事（誰も知らない保険のしくみ）
第12回	（野田）地域の元気な取組
第13回	（特別講師<予定>）①埼玉県の道路
第14回	（特別講師<予定>）②埼玉県の工場
第15回	（卒業生<予定>）社会に出てみての体験と後輩へのアドバイス